

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

48

在宅医療



市民病院
院長 神谷里明

前回2025年問題の話をしました。最期をどこで迎えるのか？最近、在宅看取りという言葉が多く聞かれます。

お年寄りが入院すると原因にかかわらず、機能の低下（ADLの低下）が起きます。入院前にはできていたことができなくなり、同居する家族がいても家に帰ることが困難なこともあるのですが、一人暮らしの場合はなおさらです。一人暮らしのお年寄りが増えており、今までは独居可能であった人が入院を契機に一人で生活ができなくなり、長期入院となったり、施設への入所を余儀なくされる。そのようなことが増えています。

しかし、今後そのような人（お年寄り二人の家庭も同様です）も家で暮らせるようにしなければならなくなってくる

ています。そのためには必要な介護認定を受け、介護サービスを受けられるようにしましょう。医療行為の継続が必要であれば訪問診療、訪問看護、訪問リハビリを受けられるようにし、独居またはお年寄り夫婦であっても暮らし続けるようにしていかなければなりません。

いろいろな病気を抱えている人も多く、たくさん薬を内服したり、外用薬を使用したりしています。薬の管理も問題になっています。飲み方を間違えれば効果が無かったり、副作用が強く出ることもあります。その場合には訪問薬剤指導も受けられます。本人が希望すれば、今使用可能な資源を最大限使って今まで住んでいた家で過ごすことも可能です。

最後まで自分らしく生きることを多くの人が望んでいます。が、なかなか難しいことでもあります。病院には入院時に全ての人に対して退院後のことを相談する退院支援システムがあります。入院中に今後どこで、どのように過ごしたいかきちんと表明し、相談でき、調整する部署がありますので積極的に活用してください。